

令和 5年度 園評価書

園番号 33

園名 庵原こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている, C : あまりできていない, D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
豊かな心でよく遊ぶ子	自分の“好き”を見つければもっと楽しむ	自然の中で不思議さ探求心を持ち、興味・関心・発見がある	自然物に興味関心を持って関わる姿があり、分からないことを園で調べたり製作に使ったりして楽しんでいる。子ども同士が共有できるよう、保育教諭が仲立ちをしたり、すぐ手に取れる場所に園鑑等を用意して置いたり子どもが「もっとやりたい」と思えるような環境づくりをしている。	A	A	・園の自己評価ではBとなっているところもAで良いのではないかと思う箇所がたくさんある	【散歩を計画する】 ・園外保育を定期的に計画し、子どもが楽しく体を動かしたり様々な経験ができる様にしていく 【園庭の使い方の工夫】 ・年齢や発達に合った遊びを段階を踏んで伸び伸びと経験出来るよう、職員間で話し合い遊具のエリアを分けるなどの工夫をしていく
		自分の“好きなこと”を見つけ、友だちや大人に伝え合う姿がある	子ども一人一人を丁寧に受け止め、好きなことややりたいことを実現させるための環境を用意することで、友だちや大人にできたことや感じたことを子ども自ら発信し、夢中で遊ぶことが出来ている。	A	A		
		発達に合わせた運動遊びや体づくりが行われ、健康な心と身体が培われている	年齢発達にあった跳び箱や鉄棒、縄跳び等の遊びにあきらめずに挑戦し楽しむ姿が見られるようになった。また行事を通して音楽をかけ自由に体操が出来るようにするなど、体を動かせる場所を確保する工夫をした。すると子ども達が集まり体を動かすことを楽しむことが出来た。	B	B		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	学年目標や10の姿を捉えた教育保育が行われている	公開保育事後研修や打ち合わせ等で都度適切に捉えられているかを確認し、指導計画や月の反省に照らし合わせながら、学年目標を意識して一人ひとりの育ちを把握し、個々に合わせた関わりをしている。	B	B	・『ちゅーるスタジアム』が出来、これからは今まであまり車の通らなかった畦道などにも路上駐車や走行する車が出てくるのが予想されるので、散歩などの際、細い道にも気を付けて子ども達が交通事故に巻き込まれないようにして言って欲しい	【発達のおさえ】 ・個々の発達を支える為に会議の中で年齢ごとの発達を確認、把握し教育保育を進めていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	園児1人1人の1日の生活リズムを整え、活動や休息、緊張や解放の調和を図る工夫が行われている	家庭での状況を連絡ノートや送迎時の聞き取りから把握し遊びの静と動のバランスを考えたり、個々の生活リズムを考慮した関わりをしている。また行事に伴って集中すべき時間が長めになっている場合には、戸外で思い切り体を動かして遊べる時間を保障している。	B	B		【子どもの満足度を考えた時間配分】 ・登園時間によって子どもの遊びの満足度に差が生じるため、保護者一人ひとりに分かりやすく伝え、理解を得たい
	(3)環境を通して行う教育及び保育	園児自ら興味関心を持ち、自発的・主体的に関わりたくなる環境構成の共有実践が行われている	広いテラスを遊び場に活用したり、廃材を利用して楽しく安全に遊ぶようにしている。また子どもの発達に合った手作り玩具を用意したり、『トつき棚』に個々のマークを用意するなどし、作ったものが一定期間とっておけるよう配慮したことで、間違えて自分の作ったものがなくなるのが少なくなり遊びを継続して楽しめるようになった。	B	B		【園庭環境と教材研究】 ・子どものタイミングに合わせた教材の提供を行い、園庭環境を子どもに合わせて変化させていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	・災害時に身を守る行動が取れるように、年間計画に沿った避難訓練・不審者訓練が行われている ・安心安全な環境維持のため、毎月環境整備ヒヤリハット収集や振り返りが行われている	毎月設定を変えて災害の避難訓練や不審者訓練を行うことで子ども自ら身を守るようになってきている。訓練後にあった反省点を職員間で共有・見直しを行い、対応の改善を図っている。またヒヤリハットの収集と話し合いを定期的に行い、安全なこども園の維持を図っている。	B	B	【課題や反省の共有】 ・会議の中で職員間での課題の共有を行った後、会議に出ていない職員にも係を決めて確実に伝達を行う	
		(1)健康教育の充実	・食育活動を通じ、食の大切さに関心を持ち、基本的な生活習慣を身に付けるために丁寧な援助がなされている	・毎月19日の食育の日には、季節や発達に合った食育活動、食育便り、クッキングが行われ、食に関する話をベープサートや人形を用いて分かりやすく伝えていくことで、子どもが食に興味関心を持っている。また隔月でメニューを食べる機会を持ち、咀嚼力を付けられる様にした。 ・うがい手洗いの習慣をつける為、水道近くや天井に印を貼りつけて、子どもの注意を引けるようにしている。	B	B	【保護者への啓蒙方法】 ・見てすぐ内容が分かる様なお便りやボードづくりの工夫 ・生活習慣に関する子どもへの意識付けを行っていく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	・個別指導計画を作成し生きる力の基礎を培う経験積み重ねるための援助がなされている ・会議で個々の発達特性を職員間で共有し援助に活かす	個別のサポートプランを立てることで個々の特性に合わせた援助を考え、教育保育を行っている。各専門機関(言語教室うみの子 くらり等)とも連携し、アドバイスをもらい日々の教育保育に反映している。	B	B	【職員全体の一貫した関わり】 ・会議や園内研修の伝達を確実に、園全体で教育保育を行っていく ・保育日誌、フリー日誌に子どもたちの姿を記入し、職員間で読み合う	
		(1)組織体制の充実	自分の役割分担に責任を持ち、積極的に情報共有し合い園づくりを進めている	分掌が中心となって行事を進め、反省等を会議で共有している。その場にはない職員には会議後迅速に伝達が行えるよう担当者を決めて行っている。	B	B	【情報共有】 ・行事の準備・進行具合を伝達する時間を確保する ・分掌が中心となり、行事全体を把握し進めていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	・発達に合わせた運動遊びや体づくりが行われ、健康な心と身体が培われている	公開保育の中での学びや気づきを事前・事後研修内で話し合い、その中であった改善点やアイデアをその後の教育・保育に活かし、それを基に遊び環境を改善し整えている。	B	B	・小学校としてスタートカリキュラム等を行い、子ども達がスムーズに小学校へ移行できるようにしている ・園からの説明の中で『子どもの育っている姿』や保育教諭の関わりが見えた。全ての項目が小学校と関連してくるので、庵原の子の“優しさベース”を引き継げるように小学校も工夫していきたい	【環境と園内研修体制の見直し】 ・月の反省をした際に、園庭環境を見直していく ・4月初立でた計画に基づき研修を進めていく
		(1)教育・保育環境の充実	乳児・幼児リーダー会議を実施し、園庭環境を整えられている	月1回定期的にリーダー会議、乳児幼児会議を実施し、園庭・室内環境の改善を行っている。(とつき棚整備、石拾い、玩具の入れ替え、倉庫内整理、築山整備等)	B	B	【子どもの姿の見取り】 ・学年毎の子どもの遊びの見取り時間の確保を行う 【会議の確実な実施】 ・乳児幼児会議を職員会議で日付を決めて確実に実施していきたい
5 組織運営	(1)研修体制の充実	定期的なお便りの発行や面談の実施で保護者との子ども理解の場が設けられている。またアンケートの返し等を通し、保護者の声を園行事に反映している。また毎日の給食やレシピの展示を行い親子交流のきっかけづくりをしている。	分掌が中心となって行事を進め、反省等を会議で共有している。その場にはない職員には会議後迅速に伝達が行えるよう担当者を決めて行っている。	B	B	【保護者との密なコミュニケーション】 ・来年度引き続きお便りやボード、面談等を通じて保護者と協力して教育・保育をして行く ・スタートカリキュラムにおいて、すべての園で共通の物(玩具・歌・遊び等)があると良いと思う ・庵原地区の『S型デイサービス』ではボランティアスタッフの高齢化が深刻で、来年度10カ所から7カ所に減ることになった	
		(1)家庭教育への支援機能の充実	園だより、クラスだより、毎日のボード、参加会、登陸園時のコミュニケーションを通じ、子どもの成長の喜びや園の理解が深まるようにしている	地域小学校(スタートカリキュラム・小中連絡会等)や学校訪問にて小学生との交流を実施。更に気軽に散歩等で訪問できるようにしていきたい。近隣園とは学校訪問時に交流。更に交流を深められるよう計画している。	A	A	【積極的な交流の実施】 ・年度初めに働きかけて小学校や近隣園との交流を実現していく
6 研 修	(1)研修体制の充実	・地域小学校への訪問散歩により交流を図っている ・近隣園と交流し情報共有や連携を図っている	散歩中近隣の方々と挨拶を交わしたり、芋掘り、みかん収穫体験、花育教室等の行事を通して地域の方々と交流を持つことが出来た。またお楽しみ会に地域資源の活用をすることで、園児は様々な経験を積むことが出来た。	B	B	【地域との継続した関わり】 ・JA、農家、寺院等と行事を通して関わっていきけるように計画をする ・近隣の方々に広く行事等のご案内をし、積極的に関わって行く	
		(1)教育・保育環境の充実	園だより、クラスだより、毎日のボード、参加会、登陸園時のコミュニケーションを通じ、子どもの成長の喜びや園の理解が深まるようにしている	地域との交流を通し、園だけではできない感動体験を積み重ねている	A	A	
7 教育・保育環境整備	(1)近隣の園との連携	・地域小学校への訪問散歩により交流を図っている ・近隣園と交流し情報共有や連携を図っている	散歩中近隣の方々と挨拶を交わしたり、芋掘り、みかん収穫体験、花育教室等の行事を通して地域の方々と交流を持つことが出来た。またお楽しみ会に地域資源の活用をすることで、園児は様々な経験を積むことが出来た。	A	A		
		(1)信頼される園づくりの推進	地域との交流を通し、園だけではできない感動体験を積み重ねている	散歩中近隣の方々と挨拶を交わしたり、芋掘り、みかん収穫体験、花育教室等の行事を通して地域の方々と交流を持つことが出来た。またお楽しみ会に地域資源の活用をすることで、園児は様々な経験を積むことが出来た。	A	A	